

## 2014年 司書部 夏期研修会

日 時：2014年7月22日（火）

場 所：たかつガーデン 2Fコスモス

参加者：午前45名（府立35（含む支援学校2）私学9 国立1）

午後61名（府立50（含む支援学校1）私学17 国立1）

内 容：午前の部 実習

「消しゴムハンコで、オリジナルのしおりやブックカバーを作ろう！」

消しゴムハンコ作成講師 大阪府立枚方津田高等学校

柴原 真佐子 氏

午後の部 講演「Library が Living Room に」～フィンランドの図書館と教育～

講師 大阪府教育委員会事務局 教育振興室高等学校課教務グループ

香月 孝治 氏

### <午前の部>

実習「消しゴムハンコで、オリジナルのしおりやブックカバーを作ろう！」

消しゴムハンコ作成講師 大阪府立枚方津田高等学校

柴原 真佐子 氏

#### 1. 消しゴムハンコを作るには

##### (1) 用意したもの

###### ・消しゴム

今回は消しゴムハンコ用の消しゴム（市販のもの）を準備しました。ダブルカラー（2層構造）になっていて、彫っていないところと彫ったところがカラーで見分けられるので彫りやすかったです。普通の単色（白い）の消しゴムを使うなら、彫る前に表面に色を付けておきましょう。

###### ・トレーシングペーパー

###### ・鉛筆（Bや2Bなど、濃いめがよい）

###### ・デザインカッター、カッターナイフ、彫刻刀など

###### ・赤スタンプ

###### ・お試し用の上質紙

###### ・台木、ペットボトルのキャップ（小さいハンコなら台木になる）、 ボンド（木工用 速乾性のもの）

##### (2) しおりやブックカバーにするために用意したもの

###### ・厚めのケント紙（しおり用）

###### ・色上質紙（ブックカバー用）

###### ・文庫、新書、単行本のブックカバーが作れるひな型プリント

###### ・いろいろな色のスタンプインク



## 2. 実際に消しゴムハンコを彫る

### (1) 基本

- ① スタンプしたい図案の上にトレーシングペーパーを置き、鉛筆で書き写します。
- ② トレーシングペーパーを裏返し、図案が消しゴムのカラー面に付くようにかぶせ、爪などでこすって、図案を消しゴムに転写します。
- ③ 図案のサイズより少し大きめに消しゴムを切り出します。
- ④ 写された図案の線の外側をカッターで切り取ります。
- ⑤ 作ったハンコを赤スタンプでお試し用上質紙に押し試してみます。
- ⑥ でき上がりを確認し、ガタガタしたところなどを削り、調整します。
- ⑦ ⑤と⑥を繰り返してハンコを仕上げます。



### (2) ハート

まずは形のとりやすい<ハート>でカッターの使い方や彫り方の基本を教わりました。



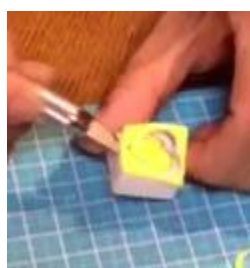
①カッターは残す線の外側にむけて切り込みを入れます。



②カッターを固定し、消しゴムを回転させるように動かします。



③V字の溝を切るように①より2ミリほど外側から刃を内側に向けて、切り込みを入れます。



④側面からカッターを入れて、表面をはぎ取るように落とします。

### (3) 星

次に同じような要領で〈星〉を作りました。



初めに切り込みを深めに入れておくと、  
〈ハート〉の手順③のようにV字に溝を  
入れなくても、側面からカッターを入れて、  
表面を落とすことができます。

### (4) キノコ

中をくり抜いたり、線を残したり、ちょっと難しい  
〈キノコ〉を作って、いろんな場面で役に立つ技を  
教えてもらいました。



作り方を動画でアップしています。  
研究会HP画面からご覧ください。



### 3. 台木をつけて、ハンコを作る

消しゴムのままでもハンコとして使えますが、台木をつけると押しやすくなります。



ペットボトルのふたを使って



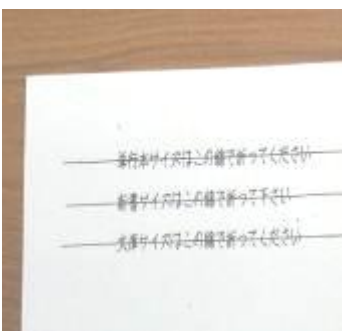
\*台木には先にハンコを押しておくこと

(糊づけしたら、二度と台木には押せませんよ!)



### 4. 作ったハンコでしおりやブックカバーを作ろう

厚めのケント紙や色上質紙に、カラフルなスタンプインクで自分の作ったハンコを押して、  
オシャレで、世界に一つしかないしおりやブックカバーを作りました。



ブックカバーにする色上質の裏側に印刷しておく

今回は実習の時間が少なく、自分のハンコは数多く作れませんでした。柴原さんに自作のハンコをたくさん持って来ていただいたので、ハートや星だけでなく、いろんなハンコを押して、素敵なしおりやブックカバーを作りました。



また、さまざまなハンコは次のハンコを作るときのデザインになります。気に入ったものをたくさんスタンプさせていただきました。



5. アレンジ作品  
布用のインクや油性のインクを使うと、オリジナルのバックやエプロン、クリアファイルなどが作れます。

## <午後の部>

### 講演「 Library が Living Room に」～フィンランドの図書館と教育～

講師 大阪府教育委員会事務局 教育振興室高等学校課教務グループ

香月 孝治 氏

#### 1. はじめに

教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、先進的に取り組む諸外国の各地域に指導者を派遣し、その後の教員研修に活かし充実を図る「教育課題研修指導者海外派遣プログラム（独立行政法人教員研修センター）」というものがあります。大阪からは3名（小・中・高それぞれ1名）参加し、昨年10月に2週間、PISA 型学力について学ぶために、フィンランドに行きました。

#### 2. フィンランドにおける教育改革

教育改革～二分化から全体的な底上げへ～



- 「協調」「信頼」「無料」「平等」
- 教育課程＝国のフレームワーク＋地方自治体の決定事項＋各校のオリジナル

1991年のソ連崩壊で東側との優先的貿易が途絶え、失業率20%、資源も乏しく、深刻な危機に陥ったフィンランド。新たなフィンランドの担い手を養成すべく、大きな教育改革を行いました。この教育改革を立案したのが、若干29歳で教育大臣となったオリベッカ・ハイノネンです。

この教育改革で、国の教育指導要領は120ページほどの簡単なものになりました。最低限のガイドラインだけが決められていて、細かいことはそれぞれの地域で定められます。自由にでも責任を持って教育が行われています。移民や少数民族の多い国ですので、彼らが使う言語は国として守るという体制がとられました。授業料は大学まで無料です。教育の底上げを行い、きちんとした納税者を育てます。「社会からはみ出す人を作らない」というところにお金が使われています。

不況をみんなで乗り切ろうと始まった新しい教育。1/3の教育者はすんなり新しいシステムに移れましたが、全体的にはそう簡単なことではありませんでした。

フィンランドの義務教育は7歳から始まり、日本でいう小学校6年間と中学校3年間を合わせた9年間あります。9年生（中学3年生）の後には、わざわざ10年生を作り、希望者には1年間卒業を延期できる制度があり、国がそれを保証しています。その後、職業訓練校や高校、大学へと進むのです。卒業延期の制度は9年生でもその学力がない人たちが進学するときによく使われます。「浪人を作らない」ためです。1年間のブランクがあると就学が難しくなり、「社会からはみ出す人」が増えてしまうからです。

### 3. セッコ図書館

「市民の居間でありたい」≠「書架があってみんな静かにしないといけない」

• 毎日 3,000 人から 4,000 人、1 年間に 100 万人以上が利用している。



セッコ図書館はヘルシンキの西にあるエスポー市にあります。携帯電話端末で有名なノキアのあったところですが、図書館は2階建てでショッピングモールの中にあります。市役所の出張所やシネコン（同一の施設に複数のスクリーンがある映画館）なども一緒になっています。

「居間」というのは「好きな人が好きなように使える」ということです。たくさんの方が図書館を利用しています。フィンランドは税金が高いので、本を購入するにもお金がかかるのです。でも、図書館だからといって、本を読みに来る人ばかりではありません。テーブルゲーム(チェスなど)が用意され、ゲームを楽しむために図書館に来る人もいます。一人で来ても、職員が相手になってくれます。リラックスマチアやカラオケ、舞台もあってよく利用されています。スタジオ(ブース)などもあり、無料で利用できます。例えば、講師は自分で探してこ



なければなりません、そのブースを使って、バイオリンのレッスンを受けたりもできます。開館時間は8時から20時まで、貸出期間と冊数は1ヵ月40冊（DVDは1週間）だそうです。

- ・蔵書は約40万冊（日本の漫画も人気）

蔵書には日本の漫画も並んでいて（『ONE PIECE』（ワンピース）など）、これで日本語を学んでいる人もいます。CDもたくさん揃っていて、日本の大きなレンタルショップよりも充実しているかもしれません。

- ・スタッフは75名+α

+αというのは非常勤の方です。制服はありませんでした。

- ・児童部門

セッコ図書館はワンフロアですが、書架等で区切っているようなスペースが作られています。3～4歳区切りでスペースが作られています。

<0～3歳児ルーム>

小さな子どもが泣き出すとうるさいかもしれませんが、フロアの端の方に作られています。大人が本を読むスペースとは離れています。母親たちもこういうスペースを利用することでいろんな交流ができていいようです。

<ガールズコーナー>

ここには女の子しか入れません。女の子に呼んでもらえると男の子も入れるようですが…。おしゃべりが中心のスペースだそうです。



編み物の置かれているところもあります。そこでは誰かが何かを作り、別の誰かがもらっていくというスペースのようです。娘がショッピングをしている間、老人が編み物でもしているのでしょうか。ちなみに編み物は学校の授業でも行われています。

3Dプリンターも図書館で購入の予定で（数千万円はする）、利用者が自由に使えるとのことでした。なぜ図書館で3Dプリンターを？と思いますが、3Dプリンターを使うことで、工学の分野に興味を持ち、そこから本を読んでくれればいいと思っているとのことでした。うまくいくかどうかはわかりませんが、何でもやってみて「前向きにあきらめる」、うまくいかなくてもそれはそれでいい、また次に進めばいいという考え方なんだそうです。

#### 4. 行政の取り組み

- ・LYNJA（リンヤ）

「公園を子育て支援の場に」というもので、市が運営しています。この取り組みは都市部（ヘルシンキ）では長い歴史があります。午前中は就学前の親子、午後は学校を終えた小学生たち（授業が終わるのは14時くらい）が学童の場として宿題をしたりしています。

- ・ユースセンター

ソファやキッチン、音楽ブースやホールなどがある施設です。施設や利用時間帯によって内容は異なりますが、子どもたちが宿題をしたり、大人が子どもと一緒にお菓子を作ったり、高校生がバンド練習に訪れたり（夕方）、ダンスパーティが行われたり（夜）と誰もが気楽に来て遊ぶことのできる場所です。ここも市が運営しています。

#### ・「若者を捜せプロジェクト」

これは高等学校や職業専門学校に進学しない、または進学しても登校できない生徒に対して、若者を社会の輪からはみ出せないための支援です。不登校児に行政（担当者がいます）が対応して面倒をみています。なぜ学校に行けないかを探り、行政同士で連絡を取りあって若者を育成します。例えばギター好きの子どもなら、隣町のドラム好きの子どもと会わせて、バンドを組ませ、ライブコンサートを計画し、チラシを作成・配布するといったことをします。子どもたちに自己肯定感を持たせるように支援します。無理に学校に戻すことはせず、「常に見守っています」という体勢で、良い距離感を保ち、子どもたちに孤独感を持たせないようにしています。若者が社会からはみ出す前にきちんと育成して、納税者になってもらうのです。

### 5. 学校の様子「フィンランドの資源は人」

#### ・学校生活

学校によって様子は異なりますが、いくつかを紹介します。

#### 小学校①

教師5名、生徒数60名、校舎は1階建ての学校です。担任は1～6年生まで持ちあがり、クラス替えはありません。校舎内は裸足、給食はデリバリーです。休み時間には教室にいないような教育がされています。どんなに寒くても外に出ます（-15℃までは外に出て遊びます。教室の中はとても暖かくされているそうです）。

図工室にはいろんな設備が準備されていて小学校とは思えないくらいです。家庭科室の設備も新しいものばかりです。日々の生活を行うためには新しいものでないと役に立たないからです。どんな小さな小学校でも同じように整えてあるとのこと。

時間割は空白部分と×（バツ）印が入っているところがあります。空白のところは科目が決まっています。×印のところは内容が決まっていない（固定されていない）ところです。義務制だけかもしれませんが、理解が進んでいないと思うところがあれば、この時間を利用して授業を延長して行ったりするようです。スペシャルウィークには学校（学年）独自の内容（アクティブラーニング）を行います。例えば、一週間ずっと数学だったりするわけです。スペシャルウィークの学習については、生徒が自己評価を行っています。春と秋には保護者との懇談があって、通知表もあるようです。

A photograph of a handwritten timetable on a whiteboard. The timetable is organized into a grid with columns for days of the week and rows for time slots. The days are labeled in Finnish: MAANANTAI, TIISTAI, KESKIVAKKO, TORSTAI, PERJANTAI. The time slots are labeled in Finnish: 8:00-8:45, 8:45-9:45, 10:00-10:45, 11:00-11:45, 12:00-12:45, 13:00-13:45. Red 'X' marks indicate when a subject is scheduled. The subject 'MATEMATIIKKA' is written at the top right. The subject 'SUOMEN KIELI' is written at the top left. The subject 'MATEMATIIKKA' is written at the top right. The subject 'SUOMEN KIELI' is written at the top left. The subject 'MATEMATIIKKA' is written at the top right. The subject 'SUOMEN KIELI' is written at the top left.

## 小学校②

島の小学校で生徒数も少なく、複式学級です。1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生が同じクラスです。このように組むことでいじめ防止につながるそうです。学年独自の授業を行うために、登下校の時間を学年によってずらしているそうです。それぞれの学級で机の配置も違い、生徒の動きもいろいろでした。

パソコンを使った学習も行われていて、形容詞をたくさん集めて使い方を学ぶといった課題が行われていました。評価とは関係なく、早く課題を終えれば好きなこと（例えば、本を読むとか）をしてもいいようです。

## 中学校①

見学している時、授業が始まるというのに生徒が廊下に出てくるのでなんだろうと思っていると、廊下で体操を始めました。午後の授業で眠くなってきたので、先生には許可をもらって廊下で体操をしようということになったそうです。

## 中・高一貫校①

生徒数が600～700名の学校です。フィンランドでは高校生でも車の免許が取れる（運転できる車に制限（排気量）がある）ので、車での通学もあるそうです。

生徒たちが話し合って生徒集会が行われることも多く、「過ごしやすい学校にするにはどうすればいいか」のようにテーマを決め、アンケートをとり、集約し、教師に向けてプレゼンを行うといった自治活動が行われています。「ナイトガウン Day」や「黄色い服の日」など、面白い企画もあるようです。

## 学校図書館

学校図書館はだいたいセッコ図書館の1/3くらいの広さです。調べものには使いますが、そんなに頻繁に使われている風ではなかったです。生徒たちはあまり本を読んでなくて、寝てる子どももいました。公共図書館の方をよく利用しているのかとも思いましたが、そうでもないようでした。大学生は必要に応じてまあまあ利用しているようです。学校によっては、図書館にイスやテーブルのないところも多いとのことでした。

### • verso（ベルソ）

子どもたちがまず考えて動く「けんか仲裁委員会」です。授業中でも委員会が開かれるそうです。

### • KIVA system

KIVAは素敵という意味です。ゲームなどを通じていじめを考える「いじめ防止プログラム」です。

フィンランドでの教員採用は学校ごとで行われるため、異動がありません。先生になるためには修士以上の資格が必要です。教師になりたい人は多いですが、なかなかありません。学校ごとに採用されるので、その学校に空きでないと採用されないからです。都市部では特



に厳しいようです。小学校や中学校にはアシスタントティーチャー（免許はあるけれども、正規には採用されていない人たち）がいます。持ち授業時数は初めの契約で決まっています。補講を行う必要があっても別契約（別料金）です。不況が進むと教育費が少なくなるので、教師も減ってしまいます。管理職にはマネジメント力のある人になるので、若い人もいます。



職員室は情報交換の場です。パソコンは少し置いてありますが、まるでどこかのカフェのようです。リラックスする場でもあります。ミーティングルームは別のところにあります。教師の帰宅時間は15時前後で、仕事は家でされているようです。

校長も授業を持っています。授業を持たないと子どもの様子がわからないからです。見学した学校の校長は8時に出勤、15時に終了、月曜日は17時まで演劇クラブを持っているとのことでした。市民講座も持ち、市議会議員もされていました。フィンランドではいろんな仕事、立場の人で市議会が構成されているのだそうです。

試験の様子も見学しました。静かにするなどの注意もありましたが、試験中に外部の人を教室に入れることに驚きました。また、試験中に手をあげて質問する生徒がいて、その質問に教師が答えていることにも驚きでした。後で聞いてみると、答えを教えているわけではなく、解き方を教えていたそうです。この試験では成果がなくても、次の試験でできるようになればいいからとのことでした。

## 6. おわりに

冒頭で述べたように、本日お話しさせていただいた内容はあくまでも1つの例であり、フィンランドのすべての図書館や学校が同じように運営されているわけではありません。現場の裁量に任されている部分が多く、図書館にしろ、学校にしろ、それぞれが個性・特徴を持っています。したがって、フィンランドと日本という国レベルの比較より、お話しさせていただいた内容で、1つでもみなさんの学校の図書館（室）や日々の教育活動のヒントとなるものがあれば幸いに思います。

本日はありがとうございました。

## 7. 質疑応答

- ドイツのように小学校でも進路指導はあるのか？

多くの学校で懇談は行われているが、小学校ではあまり進路の話はないようで、学習の内容が中心である。入学式の案内や通知が各家庭にはなく、掲示板にある情報を各自で確認するそうである。服装の指示もないので、出席する保護者はまわりにいる経験者（上級生の保護者など）に聞くしかない。ちなみに入学式はセレモニーというよりはガイダンス的な感じである。高校では進路部長は専門職であり、そのための資格が必要となっている。

- 試験はどのようなもの（形式）か？

国レベルでの規定はない。観点的で、複数の人に関わって評価している。保護者はパソコン（パスワードあり）から確認することができる。

## <まとめとして>

OECD（経済協力開発機構）のPISA調査で日本の成績が低かったことがきっかけとなり、PISA型学力が注目されました。PISA型学力とは「知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかどうかを評価」するものです。PISA型学力が高いフィンランドの教育を理想とする教育者もたくさんいます。知識を問う「学力」だけが必要な力ではないというところや自分で考え、生きて行く力を身につけるといった教育は図書館でも実践できるものではないでしょうか。

午前の実習には生徒図書委員たちとも一緒にできる内容を考えました。知ってはいても自分ではやったことのなかった消しゴムハンコ作り。ちょっとしたコツを教えていただいて、楽しく作ることができました。研修の時間が短く、あっという間でした。いろんな作品を生徒たちいっしょに作っていきたいと思います。

司書部の夏期研修会としては今年度の研修が最後になりますが、図書館研究会がなくなるわけではないし、学校図書館活動も続いていくので、これからも実践に役立つような研修ができればいいと思っています。

## <感想より>

○ 午前の研修について感想をご自由にお書きください。

- ・非常に楽しかった
- ・夏休みの自由研究のような気分で夢中になってスタンプ作りをしました。あっという間の2時間でした。図書委員と一緒に作ります。ありがとうございました。
- ・とても楽しかったです。又職場で作ってみようと思います。
- ・生徒に配るしおりづくりやPOPづくりのときの装飾に利用できそうでよかった。図書委員に進めたいと思います。
- ・楽しくてあっという間の時間でした。
- ・とても楽しかったです。自分に作れるとは想像していませんでしたが、柴原先生のご指導のおかげで人生初の消しゴムハンコを作ることができました。図書館業務の中だけでなく個人でも楽しんで簡単なものからチャレンジしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・とても分かりやすくてためになりました。是非いろいろ作って図書館運営に役立てたいと思いました。ありがとうございました。
- ・消しゴムハンコの作り方のような本は図書館に入れてましたが、自分で作ることはありませんでした。いざ作ってみると簡単な図案でも難しいことがわかりました。ハンコを布に押ししたり、ブックカバーやしおりに押ししたりしていろいろな楽しみ方があるものだと思います。
- ・とても楽しくできました。先生の様にきれいにはできませんが、今後もやり続けたいと思いました。
- ・とても楽しかったです。（仕事より集中してしまいました。）図書館でもいろいろ活用できそうですので、早速試してみたいと思



います。ありがとうございました。

- ・実習付の研修会はなかなかないので興味深かった。消しゴムハンコは図書館にも4、5冊あり先生方にも愛好者が多いのだが、私自身はやってみたことがなく学校印はどれも外注していた。いろいろ応用可能なので公私共に活用したい。

- ・なかなか上手く作成できませんでしたが、色々なサンプルも拝見させていただきではなく活用させていただき、あっという間の楽しい時間でした。

- ・消しゴムハンコは何個か作ったこともあったのですが我流でしたので掘り方とかを詳しく説明していただきとても参考になりました。

- ・初めてのものでもわかりやすく、特にカッターナイフの使い方を教えていただけたのがよかった。

- ・時間があっという間に過ぎ非常に楽しかったです。先生のコツ、手技をまじかに見ることができ勉強になりました。

- ・実用的で大変良かったと思います。あんなに上手に作るまでになるには時間がかかると思いますが、少しずつトライしてみたいです。

- ・初めて消しゴムハンコを作りましたが楽しかったです。柴原先生のように出来たら読書週間に図書館に来た生徒にしおりやブックカバーを作ってプレゼントできるなぁと思いました。

- ・自分にできるか心配でしたが、何とか出来は悪いですができました。しおりやブックカバーにハンコを押して飾るのも素敵です。いろいろ広がっていく消しゴムハンコの世界が楽しく柴原先生の技術やセンスがすごいと思いました。

- ・直接ハンコを作ることができていい経験になった。説明がとても丁寧で、今回はうまくできなかったけれど又やってみようと思うことができた。先生の作品はかわいくて、すごい！作品もあって学校現場でいろいろ活用できると感じました。

- ・落ちこぼれながらも彫ることができて楽しかったです。要領がよくわかりました。もっと紙に押す時間が欲しいぐらいでした。いっぱい押させていただいたので使いたいと思います。

- ・消しゴムハンコ作り... カッターの使い方がよくわかり細部はとても難しかったですがおもしろかったです。講師の先生の作品、本当に素晴らしかったです。ブックカバーもしおりも楽しいものを作らせて頂きました。ありがとうございました。

- ・消しゴムハンコのすごい世界をみせて頂き、ありがとうございました。簡単な物を私も作ってみようと思います。



- ・楽しく研修することができました。スタンプを作るだけでなく、しおりやブックカバーへの活用なども参考になりました。

- ・楽しい消しゴムアートの講習ありがとうございました。私もいろいろな人たちにハンコを作ってプレゼントしたいと思いました。ハートのハンコは姪っ子にあげます。

- ・大変楽しくかつ即実行可能な有意義な研修でした。生徒図書委員会が文化祭でオリジナルブックカバー、葉、メモスタンドなどをバザーとしているのですが、そのグッズに使えます。(ので図案頂戴いたします)

- ・大変面白かったです。いつか消しゴムハンコを作りたいと思いながらきっかけができませんでした。今日初めて作ってできてきた時の喜びが大きかったです。是非生徒にも教え、一緒に作ってみたいと思います。

- ・消しゴムハンコ、作り方も詳しく教えて頂き楽しめました。アレンジしたら色々とつかえ

そうで有意義な研修会でした。

- ・実習形式の研修は非常に楽しく参加でき充実していました。作業に集中すると時間が経つのが早く、あっという間に終わってしまい課題が残りました。
- ・初めて消しゴムハンコを作りましたが、先生の教え方がすごくわかりやすく無事に作れてうれしかったです。これからもハンコ作りに挑戦してみようと思います。本日はありがとうございました。ブックカバーやしおりなどもかわいくできました。
- ・数時間の研修で簡単に消しゴムハンコが出来上がり、作り甲斐がありました。そして達成感も持ててよかったです。図書委員の活動に活用したいです。
- ・消しゴムハンコは思っていたより作りやすくまた作ってみたいと思いました。ご指導ありがとうございました。準備も大変お世話になりました。
- ・とても役立つ研修でした。持ち帰って何かに活用できそうです。

## ○ 午後の研修について感想をご自由にお書きください

- ・教員として、また親としてうらやましく拝見しました。単純に比較できないでしょうが、移住したいくらいです。
- ・フィンランドの教育システムに興味があったので、非常に有意義な話を聴くことができました。日本にもフィンランドのようなユニークな試みが増えていくことを期待したいと思います。
- ・とても勉強になりました。他国の教育制度、ましてや図書館の事など全く知りませんでした。ありがとうございました。
- ・フィンランドの教育についてとても興味深いお話でした。
- ・自分では知ることのできない現場の様子を知ることができ大変有意義でした。ありがとうございました。司書なのでもう少し図書館、学校図書館の事をしりたかったです。
- ・フィンランドという国を知るにはよかったです。
- ・フィンランドの教育、図書館の様子などとても興味深いお話でした。人が社会の中で大切にされていると感じました。教育に対する意識の仕方が本当に日本と違って感じさせられることばかりでした。ありがとうございました。
- ・以前よりフィンランドの教育（国づくり）には興味があり非常に興味深くお話を聞かせていただきました。日本の教育界も少しはフィンランド風にならないでしょうか。本当にいろいろ羨ましくおもいました。
- ・写真付きで図書館、学校の様子がわかりやすく、日本との違いもあって興味深い内容でした。
- ・フィンランドの生徒がどんなに寒くても外で遊ぶことや職員室のソファで先生方がくつろぐ様子など日本と違う設備や教育環境が充実していることにいろいろ驚かされることもありました。総合的見地から教育環境を整える姿勢は日本とずいぶん違うと思いました。
- ・他国の教育内容がわかってよかった。
- ・とてもためになるお話でした。以前少し勉強したオランダの教育と少し似ているところがあるのかなと思いました。
- ・フィンランドでは図書館や教育について子供（利用者）中心に考えられていると思いました。
- ・なぜフィンランドなのかわからない？日本の経済規模や人口など比較ができないように思

いました。

- ・「図書館を居間に」の目的はよくわかりましたが、実際の運用上の面白さ、あるいは難しさをもう少しお聞きしたかった。後半の学校紹介を少し端折ってでも。

- ・今まで具体的に知らなかったフィンランドの教育について知ることができ、勉強になりました。

- ・生徒の自主性を尊重する様な様々な取り組みなど、日本にはない素晴らしい教育内容を聞け大変勉強になりました。全てを日本に取り入れるのは国の特色等もあり問題もあるでしょうが参考にできる部分も多々あるのではないかと思います。

- ・発表されているときにもう少しパネル形式だったらと思いました。

- ・フィンランドという独自の教育メソッドを持つ国に対し（世界の一流教育水準テストで1位を占めている国に対して）興味があった。実際に教育現場、図書館に行かれたレポートであったので面白く勉強させていただきました。とにかく一人ひとりに向き合って、本人の希望に沿ってやりたいことをさせる方針なのかなと思いました。

- ・普段の生活では聞くことのできないフィンランドの図書館、学校の今の実態を聞くことができ、興味深くよい機会となりました。

- ・教育のありかたや図書館の様子等わかりやすく説明してくださり日本との違いがよくわかりました。

- ・欧米諸国の教育現場の状況を聞くたびに、日本とのあまりの違いにガッカリせざるを得ません。一人の教員の抱える生徒の数、業務内容の多さ..... 教育にかけるお金.... 日本の国でもいつかこれらが納得できるものになるのか... 可能性はあるのか。

- ・生徒への支援や指導、現場の人間だけでなく行政も深く関わっているところは日本でも行うべきではと思った。

- ・今回のように世界の図書館に目を向けると常識がくつがえるというか、発想の転換になっておもしろいですね。フィンランドに思いをさせ、楽しませてもらいました。

- ・大変興味深い内容でした。図書館、教育行政の違いがわかり良かったです。

- ・フィンランドの図書館や学校に触発されました。自由に楽しくをモットーに図書館を運営できたり、それを活かして学校の手助けができたらいいなと思いました。

- ・日本とは違いのある公共図書館や学校教育の現状を聞かせていただき勉強になりました。

- ・セツロ図書館の「市民の居間でありたい」という斬新な発想、学校図書館にも近いようなものもあるかもしれませんね。勉強する生徒も当然いるのでどうあればいいのでしょうか。フィンランドの学校の様子をはじめて知りました。

- ・参加させて頂いて本当に良かったと思っています。国をあげて子供たちの全面発達を保障しようとしている姿が自分の国の進もうとしている現状とかなり違っているように思いました。上から点検され追われ詰め込む教育に豊かな未来があるのだろうか... 子ども中心に税金をどう使えばいいのか、どういった議員（リーダー）を選ぶのかしっかり考えていこうと思いました。

- ・明るい色使いが施設に多かったですね。”納税者を作る”という言葉が印象的でした。社会からのみ出し者を作らないという姿勢は大事ですね。

- ・フィンランドの学校や図書館や教育のいろいろなお話を伺い興味深かったです。写真もわかりやすかったです。

- ・写真をたくさん見せていただけたので、とても分かりやすかったです。先生の視野が広く、

様々なお話が聞けたのもありがたかったです。ありがとうございました。

- ・フィンランドと日本の違いを興味深く聞かせていただきました。考え方、文化的な違いに驚かされました。ありがとうございました。
- ・大変参考になりました。
- ・社会教育分野との連携を考えているのが印象的です。
- ・図書館や学校運営の様子がうらやましい。日本ももっと教育にお金や人間を使ってほしい。
- ・研修報告そのものは参考になりました。(香月氏によろしくお伝えください)とはいえ大半が図書館とは違う話、この研究会で取り上げるテーマではなかったと思います。双方にとってミスマッチでした。
- ・日本とフィンランドの図書館の違いにびっくりしました。「L Y N J A」や「若者を捜せプロジェクト」はとても興味深いもので日本にもこういう取り組みがあればよいと思います。もう少し図書館のお話がお聞きしたかったです。
- ・フィンランドの様子が写真と共によくわかりました。
- ・フィンランドの学校・教育には皆の関心が高く興味深くお話を聞くことができました。スライドが多くわかりやすかったと思います。
- ・フィンランドの学校の在り方と日本の学校の在り方の違いに感心させられました。
- ・フィンランドの図書館、教育について興味深く話を聞かせてもらいました。友人が大学でフィンランド研究を進めておりいろいろ話を聞いていたので同じ話もありました。個人的にフィンランドで教育について学べたらとも考えています。
- ・フィンランドの教育の状況をパワーポイントで紹介していただきレアな写真が見れて参考になりました。日本とはずいぶん違うことが、特に職員室とか持ち帰って仕事、3時に退勤、校長が授業を担当などわかってよかったです。
- ・大阪とはかなり違っているんですね。大阪でも人や教育にかかる費用を行政で何とかしてほしいものです。